

## 【重要課題：障害のある人たち】

### 道徳科学習指導案

令和4年1月25日（金）第5校時  
第2学年

#### 人権教育としての授業研究の視点

展開場面において、「注文をまちがえる料理店」の様子を動画で提示し、料理店に関わる人々の笑顔の背景にある思いや、料理店の寛容な雰囲気よさを考えたことは、それぞれの個性や立場を尊重し寛容さをもって生活しようとする態度を育てることに有効であったか。

- 1 **主題名** おおらかな気持ちで（内容項目 B（9）相互理解、寛容）  
**教材名** 「注文をまちがえる料理店」（出典 「新しい道徳2」 東京書籍）

#### 2 主題設定の理由

##### （1）ねらいとする価値

本主題は、学習指導要領の内容項目B（9）「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていくこと」をねらいとしている。人にはそれぞれ自分のものの見方や考え方があり個性がある。相互理解するうえで大切なことは、互いが相手の存在の独自性を認め、相手の考えや立場を尊重することだと考える。寛容の心をもてば、他者の過ちや失敗をとがめずに受け入れて、よい面を積極的に認めようとすることができると思う。

中学生という発達段階になると、ものの見方や考え方が確立するとともに、それに固執する傾向も見えてくる。その一方で、安易に人の意見に合わせて現実逃避したり、自分さえよければよいという考えをもったりすることもある。相手の立場を尊重したり、受け入れたりがながら広い視野に立って物事を考えることが苦手な傾向がある。

以上のことから本題材を通して、相手を尊重することを踏まえて、相手の立場を理解し受け入れることから生じる寛容な心を理解するとともに、寛容さをもって生活していこうとする態度を育てたい。そして、他者に対して寛容の心をもち謙虚に学ぶことが、自らを高めていくことにつながることを理解させたい。

##### （2）生徒の実態

（削除）

##### （3）教材について

本教材は、ホール従業員全員が認知症である「注文をまちがえる料理店」を扱った実話エピソードである。資料の文章だけでなく、店内の実際の様子を映像資料として提示することで、認知症の従業員とお客さんの交流の様子から「注文をまちがえる料理店」が大切にしている雰囲気を知ることができる。

認知症の従業員に接するお客さんの姿から、認知症を抱える人への考え方を変えるだけでなく相手の立場を尊重し、相手の間違いを受け入れることができる寛容な心とは何かについて考えさせることのできる教材である。

#### 3 指導方針

##### ○事前指導として

- ・1年次の総合的な学習の時間に行った高齢者福祉体験の内容を振り返る場を設けることで、高齢者や障害のある人が抱える様々な問題を想起できるようにする。

## ○本時の学習として

- ・「世界幸福度ランキング」の結果を提示することで、本時で扱う道徳的価値に対する問題意識をもつことができるようにする。
- ・教科書とともに映像資料を活用することで、「注文を間違える料理店」の店の雰囲気や認知症の従業員とお客さんの様子を感じ取り、それぞれの立場に視野を広げて考えていけるようにする。
- ・店に関わる人々の笑顔の背景にある思いや願いについて考えたことを板書に構造的に示すことで、思考を整理できるようにする。
- ・ペアやグループでの意見交流の場を設定することで、多面的・多角的に考えることができるようにする。
- ・めあてについてもう一度考える場面では、導入の場面絵を再提示し「自分たちだったら何ができるか」と問うことで、自分との関わりで考えていけるようにする。
- ・グループでの意見交流では、Jamboard を活用し、共通点や相違点を基に意見交流することで、道徳的価値に対して自分との関わりで考えを深めていけるようにする。
- ・振り返りの時間を十分確保することで、今までの自分の生活を振り返り、本時で学んだことをこれからの生活に活かすことができるようにする。

## ○事後指導として

- ・学級活動の時間において、教科書 p99 の PLUS〔活動〕心を元気にする「リフレーミング」の活動を行うことで、普段の自分たちのコミュニケーションを見直し、相手を受け入れる姿勢をもてるようにする。

## 4 人権教育とのかかわり

障害のある人を含むすべての人々にとって住みよい平等な社会づくりを進めていくためには、社会のすべての人々が障害のある人について十分に理解し、必要な配慮をしていくことが求められる。しかし、現実には、障害のある人に対する理解や配慮は十分とはいえず、様々な問題が起きている。障害のある人の人権を考えるうえで、差別や偏見、無理解や無関心といった「心のバリア」を取り除いていくことが重要であると考えられる。

中学校段階では、多様な価値観の存在に気付き、ものの見方や考え方が確立してくる一方で、自分の考えに固執する傾向があり、思わぬところで相手を傷つけてしまうこともある。そのため、互いの個性や立場を尊重し、広い視野と寛容の心を育んでいけるような学習をすすめる必要がある。

本時では、認知症を抱えながらも料理店の従業員として働く人や料理店を運営する企画者の思いや願い、そしてそれを受け入れるお客さんの姿勢を取り上げる。それらを通して、障害のある人が感じている問題に気付き、相手を受け入れ、互いを尊重しながら生活していくために大切なことは何かを考えていく。さらに、今までの自分を振り返ったり、これからの行動を記入したりする活動を通して、今の自分にできることを考える意欲や態度を育んでいきたい。

## 5 本時の学習

### (1) ねらい

「注文をまちがえる料理店」に関わる人々の笑顔の背景にある思いや、料理店の寛容な雰囲気のよさを考えることを通して、それぞれの個性や立場を尊重し寛容さをもって生活しようとする態度を育てる。

### (2) 準備

＜教師＞教科書、映像資料、端末、大型提示装置、場面絵

＜生徒＞教科書、端末、ワークシート

### (3) 人権教育の視点【育てたい能力・態度】

○感性：認知症の人の気持ちに共感し、相手を受け入れ寛容な態度で接することのよさに気付く。

○実践力：お互いの立場を尊重し、寛容の姿勢をもって相手に接していこうとする。

### (4) 展開

過程	学習活動 主な発問（□）予想される生徒の反応（・）	時間	○指導上の留意点 【人権教育の視点】（道徳的価値）
導入	<p>1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。</p> <p>○「世界幸福度ランキング」の結果を確認する。 ・日本は、寛容さの満足度が低いのだな。 ・「寛容」ってどういうことなのだろう。</p> <p>○学校生活や社会生活の中で起こりうる不寛容な場面を想起する。 ・自分も経験したことがあるな。 ・どうしていくことがよいのだろうか。</p>	5分	<p>○「世界幸福度ランキング」の結果を提示することで、寛容についての関心や問題意識をもつことができるようにする。</p> <p>○不寛容な場面絵を提示し「どうすることが寛容であるか」と問いかけることで、本時のめあてにつなげて考えていけるようにする。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p><b>【めあて】寛容な社会をつくるためには、どんなことが大切だろう。</b></p> </div>			
展開	<p>2 教科書の教材文の範読を聞く。</p> <p>3 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>料理店を企画する上で、小国さんが大切にしていたことは何だったか。</p> </div> <p>・料理店としてのクオリティにこだわること。 ・わざと間違える仕掛けをしないこと。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>注文を間違えても、認知症の従業員やお客さんが笑顔なのはなぜだろう。</p> </div> <p>○「注文を間違える料理店」の映像を視聴し、笑顔の背景にある思いを考える。（認知症の従業員） ・間違えてもお客さんに優しく受け入れてもらえるから。 ・お客さんとのコミュニケーションが楽しいから。（お客さん） ・間違えられても、料理が美味しそうだから</p>	5分  20分	<p>○教材文に関心をもてるよう、範読する前に、教科書の挿絵を用いて「注文をまちがえる料理店」や認知症について事前に説明をする。</p> <p>○店のコンセプトから確認することで、企画者である小国さんの思いや願いの向かう先には、お客さんや認知症の従業員がいることに気付けるようにする。</p> <p>○「わざと間違える仕掛けをしないのは、なぜか」と問いかけることで、間違えることは認知症の人にとってもつらいことであることに気付けるようにする。</p> <p>○映像資料を活用することで、店の雰囲気や認知症の従業員とお客さんの様子を感じ取り、笑顔の背景にある思いを考えることができるようにする。</p> <p>○生徒の意見を板書で構造的に示すことで、認知症の従業員のように障害を抱えながらも社会の一員として生きる人や小国さんやお客さ</p>

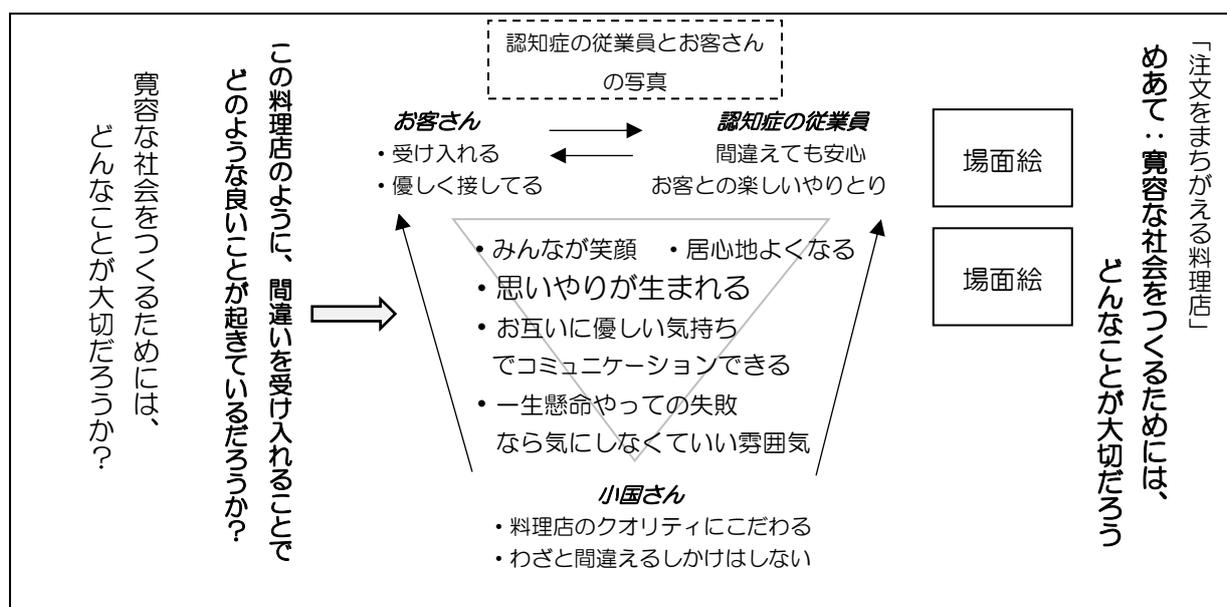
<p>まあいいか。        ・間違えてつらい気持ちを抱える従業員を安心させてあげたい気持ちがあるから。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>この料理店のように、間違いを受け入れることで、どのようなよいことが起きているのだろう。</p> </div> <p>○料理店の寛容な雰囲気のをワークシートに記入する。        ・みんなが笑顔になれる。        ・優しい気持ちや思いやりをもてる。        ・失敗しても安心できる。        ・認知症を抱える方でも、間違えることを恐れずに生き生きと過ごせる。        ・お互いを受け入れ良い人間関係を築くことにつながる。</p>	<p>んのように相手を尊重し受け入れる人々の思いを捉えられるようにする。(人間理解)</p> <p>○ペアや全体での意見交流の場を設けることで、道徳的価値に対して多面的・多角的に考えることができるようにする。        (価値理解) (他者理解)</p> <p>○意見をもつことができない生徒には、「もし自分がこの料理店の認知症の従業員だったらどのように感じるか」等と視点を示すことで、考えを促す。</p> <p>○料理店の寛容な雰囲気について多面的・多角的に捉えることで、相手を受け入れ寛容な態度で接することのよさに気付く。【感性】</p>
<p>4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについてもう一度考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>寛容な社会をつくるためには、どんなことが大切だろう。</p> </div> <p>○Jamboardを活用しながら、グループで意見交流を行う。        ・相手を尊重する、相手を理解しようとする事。        ・相手の間違いを受け入れること。        ・お互いが居心地よくなるために間違いも楽しもうとすること。        ・何でも許してしまうと、自分勝手な行動や相手を傷つける言動も出てきてしまうから、自分も相手も尊重して折り合いをつけること。</p>	<p>10分</p> <p>○『注文をまちがえる料理店』でおきていることが特別なことか「寛容な社会をつくるために自分たちだったら何ができるか」と問いかけることで、自分との関わりで考えていけるようにする。        ○場面絵を再提示することで、具体的な場面を思い浮かべながら考えられるようにする。        ○Jamboardにキーワードを記入することで、自分の考えを明確にしながら意見交流できるようにする。        ○「何でも許すことが寛容といえるか」と問いかけることで、相互理解しようとする事が大切であることに気付けるようにする。</p>

終末	<p>5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。</p> <p>○今日の授業で学んだことや、今後に生かしたいことをワークシートに記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手が間違っただとしても、それを責めずに受け入れることが大切だと分かった。</li> <li>・相手を尊重し、失敗を責めない寛容の心をもって人と接する必要性に気付いた。</li> <li>・間違いを許す心をもつことを、この先の生活でも意識したい。</li> </ul>	10分	<p>○お互いの立場を尊重し、寛容な姿勢で相手に接していこうとする気持ちを大切にしながら今後の生活に生かしていけるようにする。</p> <p style="text-align: right;">【実践力】</p>
----	--	-----	---

### (5) 評価

- 友達との意見交流を通して、相手を受け入れ寛容な態度で接することのよさについて、多面的・多角的に考えている。(発言、ワークシートへの記述)
- 相手を受け入れ寛容な態度で接することについて、自分の生活を見つめ、自分との関わりの中で振り返りながら考えている。(振り返りへの記述)

### (6) 板書計画



視聴する動画

URL : [【http://www.mistakenorders.com/】](http://www.mistakenorders.com/)